



令和5年度 パサデナ市派遣事業 青少年訪問団・教職員海外派遣研修訪問団 訪問の記録



令和6年1月5日(金)～11日(木) 5泊7日

主催: 秦野市、秦野市教育委員会

主管: 秦野パサデナ友好協会、

パサデナ姉妹校教員派遣研修実行委員会

INDEX

1	訪問団名簿	P1
2	日 程	P2
3	事前研修・結団式	P3~4
4	見学地の概要	P5~7
5	ホームステイ	P8~10
6	訪問記録	
	《1日目》 1日5日(金)	P11~12
	《2日目》 1日6日(土)	P12
	《3日目》 1日7日(日)	P13
	《4日目》 1日8日(月)	P14
	《5日目》 1日9日(火)	P15~16
	《6日目》 1日10日(水)	P16
7	感想文	P17~24

1 訪問団名簿

区分	No.	ふりがな	性別	所 属 等
		名前		
協会	1	おおつ みちお	男	秦野パサデナ友好協会 団長
		大津 道雄		
高校生	2	いい みおり	女	法政大学国際高等学校 3年
		伊井 美織		
	3	やながわ さな	女	海老名高等学校 1年
		柳川 紗菜		
中学生	4	きたむら ひより	女	鶴巻中学校 2年
		北村 陽依		
	5	かわぐち ももか	女	相模女子大学中等部 1年
		川口 桃花		
協会	6	のろ かおり	女	秦野パサデナ友好協会
		野呂 香		
教諭	7	いのまた ゆき	女	南が丘小学校 教諭
		猪俣 有紀		
随行	8	みやはら りょう	男	文化スポーツ部文化振興課 文化交流担当
		宮原 諒		
	9	ほその かえで	女	文化スポーツ部文化振興課 文化交流担当
		細野 楓		

2 日 程

日(曜日)	時 間	行動内容	宿 泊
1月5日 (金)	5:45	秦野市役所集合	機内泊
	6:00	秦野市役所発	
1月5日 (金)	8:00	羽田空港着	Fairfield Inn & Suites Marriott(ホテルステイ)
	10:25	羽田空港発(NH114)	
	7:20	ジョージ・ブッシュ国際空港着	
	9:00	ホテルへ移動	
	10:30	ホテルで荷下ろし	
	14:00	市役所訪問	
	15:30	ホテルで休憩	
	17:00	Welcome Dinner	
1月6日 (土)	9:00	ホストファミリーと行動 (ショッピングモール・食料品店・サンジャシント 記念塔など)	ホームステイ (団長及び市職員はホテル ステイ)
	17:30	パサデナ市長の自宅でBBQ	
1月7日 (日)	9:00	ホテル集合	ホームステイ (団長及び市職員はホテル ステイ)
	9:45	NASA 見学(施設内で昼食)	
	16:00	買い物(Buc-ee's)	
	18:00	パサデナ姉妹都市協会会長の自宅で食事	
1月8日 (月)	9:30	ホテル集合	ホームステイ (団長及び市職員はホテル ステイ)
	10:00	サンジャシントカレッジ見学	
	13:00	海洋技術訓練センター見学	
	15:30	独立学校区庁舎訪問	
	17:30	ディナー(BUBBA'S)	
1月9日 (火)	9:30	ホテル集合	Fairfield Inn & Suites Marriott(ホテルステイ)
	10:00	スーパーマーケットで買い物(Walmart)・ロデオ 用品店(Cavender's Boots) 見学	
	14:00	トンプソン見学	
	17:00	SAYONARA Party(トンプソン中)	
1月10日 (水)	6:30	ホテル発	機内泊
	7:15	ジョージ・ブッシュ国際空港着	
	10:15	ジョージ・ブッシュ国際空港発 (NH113)	
1月11日 (木)	15:20	羽田空港着	
	16:00	羽田空港発	
	17:40	秦野市役所着	

3 事前研修・結団式

(1) 第1回事前研修

日 時：令和5年10月7日（土）午後2時30分～午後4時まで

場 所：秦野市役所教育庁舎3階大会議室

内 容：パサデナについて、自己紹介の作成、練習、パサデナへの質問作成



講師 名古屋まゆみ先生と石井陽子先生による指導



大人の団員も交えて、自己紹介の練習

(2) 第2回事前研修（オンライン交流会）

日 時：令和5年10月20日（金）午後7時～午後9時30分

場 所：教育庁舎3階小会議室

内 容：パサデナ姉妹都市協会員とのZOOMでの交流とその準備



団員の猪俣有紀先生を中心に交流会の事前準備



訪問に向けて、パサデナ市のパサデナ姉妹都市協会員と交流

(3) 第3回事前研修（英会話研修）

日 時：令和5年12月2日（土）午後2時～3時50分

場 所：秦野市役所教育庁舎3階大会議室

内 容：入国審査の練習、お金のやりとり、英会話すごろく



講師 青木アイリーン先生による指導



すごろくで親睦を深めながら
英語を学ぶ訪問団員

(4) 結団式

日 時：令和5年12月18日（月）午後4時30分～午後5時

場 所：秦野市役所西庁舎3階大会議室

内 容：高橋市長挨拶、訪問団員紹介、親書受渡し、団長挨拶、記念撮影



各団員は訪問に向けての抱負を発表



高橋市長からパサデナ市長への親書を託された
大津団長



大津団長の挨拶



最後に記念撮影

4 見学地の概要

① パサデナ市役所 (PASADENA CITY HALL)

パサデナ市の建物は、日本に比べ低い建物が多いですが、市庁舎は其中でもひととき高い建物でした。市庁舎の隣には、図書館や警察署などの施設がありました。

今回の訪問では、ジェフ・ワグナー市長・ジニー市長婦人をはじめ、市職員が迎えてくれました。



② パサデナ独立学校区 (PASADENA INDEPENDENT SCHOOL DISTRICT)

小中学校、高校などの教育行政は、市役所とは独立した組織である「パサデナ独立学校区」が管轄しており、その長としてスーパーインテント（教育長）がいます。

パサデナ独立学校区は、1896年にたった一つの教室しか無い学校から始まり、現在では8,000名の職員（そのうち4,000名が教員）が在籍するほどに発展しました。学校は、Elementary School（日本の小学1～4年）、Middle School（小学5・6年）、Intermediate School（中学1・2年）、High School（中学3年～高校3年）となっています。年間の予算規模約900億円となっており、その財源は市民から徴収されています。

今回の訪問では、ディアン・パウエル教育長に記念品を贈呈した後、質疑に答えてもらいました。



③トンプソン中学校 (THOMPSON INTERMEDIATE SCHOOL)

日本の中学1～2年生に当たる年齢の生徒が通う公立中学校です。

沢山の課外授業（クラブ活動）があり、生徒は複数のクラブに参加することができます。中でもオーケストラなどの音楽クラブは、テキサス州内で数多くの賞を獲得する活躍を見せています。また、全面に鏡のあるダンス専用の教室や合唱専用の教室など用途ごとに教室があり、整った設備の中で教育を受けることができるようになっていきます。



④サンジャシント短期大学 (San Jacinto College)

パサデナ市と隣町のヒューストン市のキャンパスで約31,000名の学生が学ぶ、1961年創立のコミュニティーカレッジです。石油化学・海洋・宇宙・医療など、幅広い分野について学べる日本の短大に相当する学校です。日本の企業（三菱ケミカル・クラレ・オリンパスなど）も出資しています。教室には、企業で実際に使用する機材が置いてあり、就職後を想定した訓練が行われています。



また、トリニティ湾に面した海洋技術訓練センターは、米国沿岸警備隊公認の施設で、海洋・消防分野を学ぶことができます。巨大シミュレーターを使った船の操縦や実地での訓練を積むことができます。



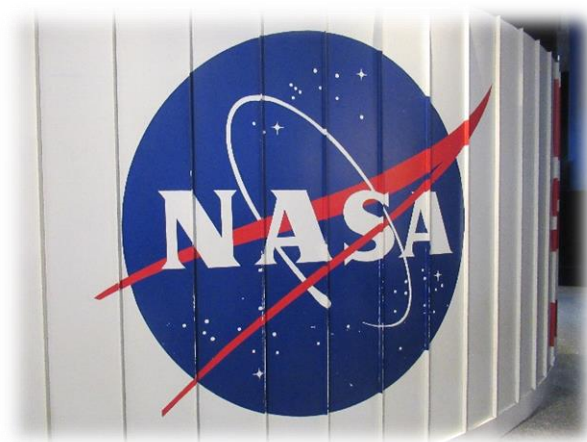
⑤ ジョンソン宇宙センター (JOHNSON SPACE CENTER)

ヒューストン市内にあるアメリカ航空宇宙局 (NASA) の宇宙センターです。全米に10施設あるNASAのフィールドセンターの一つです。元は、有人宇宙センター (MANNED SPACECRAFT CENTER) と呼ばれていましたが、1973年に、テキサス州出身の元アメリカ合衆国大統領である、故リンドン・B・ジョンソンに敬意を表し、現在の名称に改名されました。



館内には、子どもから大人まで楽しむことができる、宇宙関連のアトラクションや体験資料、土産店などが設置されています。

敷地内の施設をトラムで巡る見学ツアーに参加し、NASA職員として活躍するパサデナ姉妹都市協会の秦さんに詳しく案内してもらいました。



5 ホームステイ

①伊井美織&柳川紗菜

【ステイ先】 Nicol 家



伊井 美織（高3）

初めは緊張していましたが、15歳のセスがとてもおしゃべりで、学校のことやパサデナのことなど色々教えてくれました。友達を家に呼びみんなでモノポリーもしました。私たちが食べたいと言ったものやTHEアメリカンな食べ物をたくさん紹介してくれました。



最初は不安なことも多くありましたが、ホストファミリーの皆さんが温かく歓迎してくれ、とても楽しく過ごすことができました。ホストブラザー達とゲームをしたり色々な場所に連れていってもらったことが思い出です。



柳川 紗菜（高1）



②北村陽依&猪俣有紀
【ステイ先】Guerrero 家



北村 陽依（中2）

私は海外に行くこと自体が初めてだったので、とても緊張していて、なかなか自分から話しかけることが出来なかったのですが、リックさんもマリアさんもとても親切で優しく接して下さいだったので、5日間本当に楽しく過ごすことができました。

私がなかなか話しかけることが出来なかったときに、お二人から話しかけてくださったので、コミュニケーションをとることが出来てとても嬉しかったです。

私達を温かく迎え入れてくださったリック・マリア夫妻には、大変お世話になりました。食事の時や活動の合間に会話できたのがとても楽しかったです。ただ、「もっと話してみたい!」というのが正直な感想です。私の英語力が高ければもっと会話に幅を持たせることができたのに、と歯がゆさを感じそれが心残りとなっています。パサデナの皆さんが6月に秦野市にいらしたとき、楽しく会話ができるよう英会話の勉強に励みたいと思います。



猪俣 有紀
(南が丘小・大根小)



③川口桃花&野呂香 【ステイ先】Arnold 家



川口 桃花（中1）

最初はホストファミリーと会うのもどんな人なんだろうかと、少し緊張してました。でも、会えたときにとっても優しく接してくれて緊張は解けました。ホストファミリーと本当の家族の様な時間を過ごせたことが一番良かったです。本当の家族のようにご飯やみんなでテレビをみたりしてとてもたのしかったです。

最終日のさよならパーティーでとてもいい思い出ができたし、振り返ってみたらいつの間にか本当の家族のようになって、思い出すとこれで帰国しちゃうんだなと悲しくなり涙がでました。だけど、Carol と Terry がまたいつでもおいで！と言ってくれたことがとても嬉しかったです。

今回の訪問で、初日の空港でのお出迎えから最終日の空港へのお見送りまで、滞在中の全ての行程に最初から最後まで同行して下さっていたのが、ホストファミリーとしてお世話になったキャロル・アーノルドさんでした！



野呂 香（友好協会）



6 訪問記録

《1日目》1月5日（金）

朝5時45分に訪問団員9名が秦野市役所に集合しました。青少年訪問団の私たちは、各々の両親と別れを告げ、6時頃にバスで羽田空港へと出発しました。行きのバスでは寝ている人も数名いましたが、私はワクワクと緊張で一睡もできませんでした。バスが市役所を出発してから3、40分後、空がオレンジ色に染まっていて、「いってらっしゃい」と私たちに言いかけているようで、よりワクワクが増しました。空港では1時間ほど自由時間がありましたが、緊張のせいかあっという間に搭乗時間になり、無事飛行機に乗り込みました。私は前日にあまり寝れていなかったこともあり、離陸前から寝ていました。機内では映画を見たり機内食を楽しんだりしました。10時間を超える長時間フライトは初めてだったので、飛行機を降りたときには身体中が痛く、どんと疲労を感じました。ジョージ・ブッシュ国際空港に到着したときには雨が降っていましたが、秦野市よりかは暖かいと感じました。無事入国審査を通過し、到着ゲートを出るとパサデナ姉妹都市協会の方々が暖かく歓迎してくださいました。

まず初めにホテルへ向かい荷下ろしをした後、昼食のため Dairy Queen というファストフード店に行きました。本当はハンバーガーを食べたかったのですが、機内食がまだお腹に残っていて食べきれそうになかったため、お店の方おすすめのタコスを食べました。食べ物に限らず、飲み物などのサイズの大きさに驚きました。食後にソフトクリームを食べ、満腹になったところで協会が手配したバスに乗り市役所へ向かいました。



市役所内の様々な場所を見学していると、途中で市長の奥様が直々に案内をしてくれることになりました。市役所内には様々な写真が飾ってあり、パサデナ市のカメラマンの人が、パサデナ市のイベントや人々などを撮った写真でとても素敵でした。パサデナ市では、ホームレスの方々に食事を届けるなど、様々な活動を行っていました。議場では、ワグナー市長から大津団長や野呂香さんに記念品

が送られ、その様子がパサデナ市のテレビ局の人が撮影をしていました。その後、全員で記念写真を撮りました。

ホテルに戻り休憩をした後、ホテルで Welcome Dinner を行ないました。ホストファミリーが来てくれて、みんなでピザを食べました。どのピザもとても大きくて美味しかったです。ホストファミリーはとても優しく、私はとても緊張していましたが、話しかけてくれたので、とても安心しました。

【伊井・北村】



《2日目》1月6日(土)

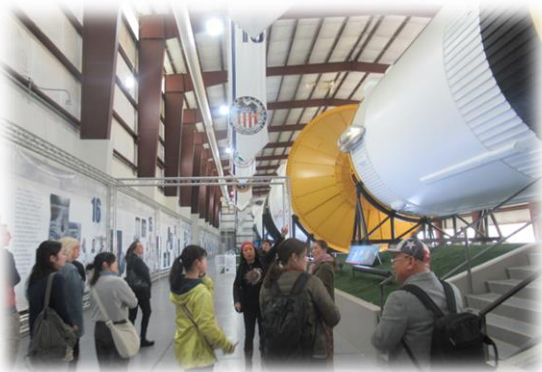
この日は1日ホストファミリーと行動する日でした。朝8時半頃に起きて準備をしたあと、車に乗って、Panera bread というパン屋さんに朝食を食べに行きました。楽しみにしていたベーグルを食べれてとても嬉しかったです。その後ホストブラザーたちが通う小・中学校も見せてもらいました。日本の学校が小さく感じる程の広大な敷地を見てとても驚きました。他にもショッピングモールやグローサリーストアなどに連れて行ってもらい、建造物や食生活から分かる日本との文化の違いに触れることができ、とても楽しく過ごすことが出来ました。【柳川】



この日はホストファミリーとモールなどを回りました。とても大きなモールでアメリカならではの店などがたくさんあり、見てて楽しかったです。この日の夜は市長とディナーで、とても大きなお家だったことが記憶に残ってます。特に、そこで出会ったチキンやビーフやバナナプディングがおいしく、わたしはこのバナナプディングがとても気に入って、この日からずっとスーパーに行った際は探していました。【川口】

《3日目》1月7日（日）

9時にホテルに集まり、私達はNASAに向かいました。移動している途中で、Space Center Houston と書いてある看板のようなものを見て、もうすぐで着くのかなと思い、とてもワクワクしました。NASAに到着すると、入口には大きなクリスマスツリーが残っていました。入口から少し歩くと、スペースシャトルの大きな模型があり、とても興奮しました。中に入ると、宇宙のような雰囲気が感じられる場所など、様々な場所を見学出来ました。なかでも私は、NASAの敷地を見学できるツアーがとても楽しかったです。通訳をボランティアでしてくださった、めぐみさんがとても詳しく説明してくれました。



ツアーが始まると、初めにテキサス州の牛がいました。徐々に進んでいくと、様々な建物が見えてきました。建物には数字が書いてあり、何の研究や活動をしているのか、一般人は分からないようになっていて、セキュリティがしっかりしているなと思いました。敷地は、一つの町のようにとても広く、社員さんも車で移動していました。ロケットや訓練や研究をしている場所など、たくさん見学できて、特別な体験が出来ました。

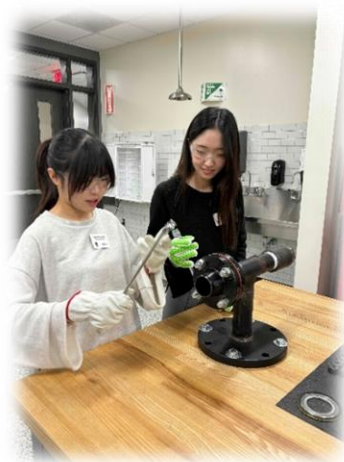
NASA 見学を終えた後、Buc-ee's というスーパーへ向かいました。スーパーだと思っていましたが、調べたところ、Buc-ee's はテキサス発祥の巨大ガソリンスタンドで、スーパー並に大きいコンビニエンスストアが併設されているとのことでした。30分という短い時間の中でお土産用のお菓子やテキサスグッズをたくさん購入しました。友達への配り土産として小包装のお菓子を探していましたが、大袋のものが多く、小包装のお菓子はほとんど見当たりませんでした。

そして、たまにしかいないという Buc-ee's のマスコットキャラクターである Bucky がたまたま店内にいました。お買い物後にみんなで写真を撮り、可愛い Buc-ee's ステッカーをもらいました。【北村・伊井】



《4日目》1月8日（月）

4日目はサンジャシントカレッジに行きました。とても大きな大学で、働いている年層が多いことに驚きました。石油化学センターではボルトの閉め方の体験もできました。わたしが特に印象に残ったのはでかいタンクがありそれをコンピューターなどで操作しながら安全を確認しているところです。



午後は海洋技術訓練センターに行き、様々な機械や部屋を見学しました。日頃からレベルに合わせた訓練を行っているらしく、天候が良ければ実際に船に乗って訓練をするそうです。他にも、船の操縦のシミュレーションができる部屋などがありました。実際に体を動かしながら臨場感のある訓練ができるのはとても大事だと思いました。



その後は、独立学校区庁舎を訪問しました。市民からお金を集め、独立学校区の中で学校を建てたり施設を建てたりできる特別なところだそうです。市民や生徒に配慮した取り組みが行われており、とても進んでいるなと感じました。

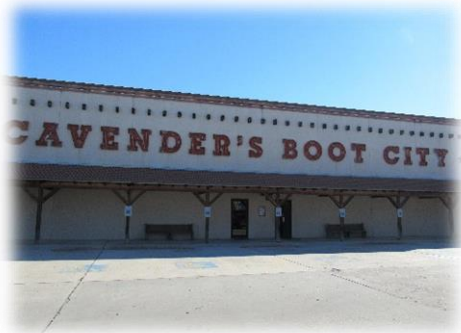


色々な場所を回り、盛りだくさんで大満足な一日でした。【川口・柳川】

《5日目》1月9日（火）

当初はアーモンド・バイユー・ネイチャーセンターの見学をする予定でしたが、予定が変更になり、代わりに Walmart と Cavender's Boots を訪れました。

Walmart は先日訪れた Buc-ee's より規模が大きかったため、お菓子コーナーしか見るできませんでした。ここでは小包装のチョコレートやクッキーなどがたくさん売られていました。ホストファミリーにすすめられたお菓子を探していましたが見つからなかったため、店員さんに聞いたところ、列の番号を言われました。日本では商品を店員さんに聞くとその場所まで連れて行ってくれるのが一般的なので、小さな点ですが、また新たに日本との違いを感じました。



Cavender's Boots ではカウボーイハットやブーツが売っていました。どれも可愛かったですが、円安ということもあり、学生には少し高い値段設定でした。

午後は、トンプソン中学校へ行きました。この日はあまり生徒はおらず、英語と社会の先生たちへの研修が行なわれていました。トンプソン中学校の校長先生や案内してくれる先生数人に自己紹介をした後、学校内を案内してもらいました。今回行った中学校は、新しく建て直したそうで、前回の学校は、災害で浸水してしまったそうです。トンプソン中学校には、日本人の生徒も数人いるらしく、驚きました。体育館では、女の子達がバスケットボールをしていました。そして、訪問団員とバスケットボールをしていた学生さんで記念写真を撮りました。



そして、色々な教室を紹介して下さりました。合唱のクラスやダンスの教室など、日本にはないような教室がありました。美術室の天井に延長コードが付いていて、グルーガンなどを使うときに使うそうで、便利ですごいアイデアだと思いました。





その後、トンプソン中学校で SAYONARA Party が行われました。ここでは、お世話になったホストファミリーや、一緒に行動してくれた方々など、たくさんの人達が参加しました。料理を食べながら、たくさんお話しをすることが出来ました。その後、アコーディオンの演奏を聴いたり、私達中高生が感謝の言葉を伝えたり、

訪問団員で「スキヤキ」という歌を英語で歌ったり、大津団長が演歌を歌って、涙を流す人もいました。とても楽しいパーティーでした。【伊井・北村】



《6日目》1月10日（水）

この日は、パサデナ最後の日でした。朝早くに起きて Carol と Terry と Rick が最後までバスに乗って、見送ってくれて、涙しながら別れを告げました。また会おう！と最後に Terry がコインをくれました。「これはレアモノだよ、大切なお土産に」と言って渡してくれました。とても嬉しかったです。最後に思ったのはまだいたいなということです。【川口】



7 感想文

秦野パサデナ友好協会
大津 道雄(訪問団長)

現地パサデナの方のサポートに感謝とともに子どもたちの成長に驚き

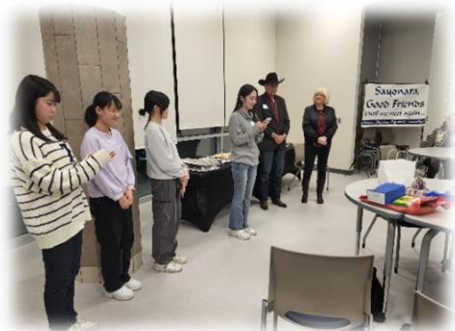
ジョージ・ブッシュ空港のお出迎えから帰りのお見送りまで、リック・グレーロ姉妹都市協会会長をはじめ、現地パサデナ市の皆様方が常に同行して下さったことに深く感激するとともに感謝の気持ちでいっぱいです。市役所表敬訪問に始まり、NASA やサンジャシントカレッジ、トンプソン中学の案内等の際、必ず数人の方が付き添い、不慣れな私たちを陰ながら支えてくださったのです。前会長ゲイル・カーターさんがドアの開閉やパーティー会場の後片づけを率先されて行っている姿は忘れられません。



また、視察会場への送迎やランチ、ディナーの際には、にこやかな表情を浮かべ、気さくに私たちに話しかけてくださり、日に日に我々がリラックスしていくのが分かりました。



そして、最大の喜びは子ども達4人の成長です。僅か5日間の研修メニューでしたが、中身の濃いものばかりでした。常に主役の彼女らです。緊張もしたでしょう。しかしながら、そうした中においても、挨拶の声はだいに大きくなり、表情も自信に満ちてくるのが傍にいて感じました。諺に「可愛い子には旅をさせよ」とありますが、正にその通りです。さよならパーティーで見せた涙は、単なる別れの寂しさだけでなく、がんばった自分自身へのご褒美の涙だったと私は思っています。



今回の訪問を通じて、アメリカのことを知るといよりも、むしろ日本の現状を理解できたと感じています。多様な人種・民族が共存するアメリカは、差別問題が顕著だと言われ、特にテキサス州はその中でも人種差別が比較的多いとされています。しかし、今回の訪問を通じて、それが本当に



にそんなのかと疑問に思うほど、温かい人々に囲まれました。学校や施設を訪れた際、すれ違う人たちが笑顔で挨拶してくれたり、スーパーで小銭の計算に戸惑っていたときには、店員さんが気遣ってくれたり、心温まる経験がたくさんありました。特にホストファミリーは、私たちを「日本人」としてではなく、1人の人間として歓迎してくれたと感じました。一緒にスーパーを訪れた際、見たことのない商品ばかりでキョロキョロしていたせいか、“Do you have these where you are from?”と聞かれました。海外に数年住んでいた私にとって、相手に悪気が無かったとしても、in your countryと言われることでその国との違いや距離感を感じさせられていました。しかし、ホストファミリーは in your country ではなく where you are from と聞いてくれました。小さいことながらも、受け入れられていると感じました。



一方で、日本では外国人に対する差別が深刻化しています。日本に住む外国人の友達からは、楽しい瞬間もある一方で、生きにくいこともあると聞きました。今回の経験を通じて、異なる国々での人間関係や受け入れの在り方について深く考えさせられました。

今後、パサデナの人々が日本を訪れる際、誰もが受け入れられていると感じることができるようにできたらいいなと思います。友好協会と派遣団のみなさま、特にホストファミリーに心から感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

私は今回のパサデナ訪問で多くを体験し学ぶことができました。出発前は不安と緊張でいっぱいでしたが、現地には優しくフレンドリーな人たちが沢山いて、私たちを歓迎してくださったおかげで充実した楽しい5日間を過ごすことができました。現地では、様々な施設や市役所、短大などを見学し、パサデナ市の歴史や文化を沢山学ぶことができました。中でも驚いたのは、短大で聞いた市の消防隊員の方々についてのお話です。なんとパサデナ市では消防隊員のほとんどがボランティアで活動されているそうです。自力で資格をとる必要があるため、負担が大きいにも関わらずボランティアで活動されている市民の方々のパサデナ市を思う気持ちに感動しました。



また、現地の人々は皆温かく見守ってくれて、私の質問にも一生懸命考えて答えてくれたのがとても嬉しかったです。パサデナ市に滞在したのは5日間という短い期間でしたが異国の文化や歴史、日常生活に触れ、多くの貴重な経験を得ることができました。パサデナ市の皆さんがしてくださったおもてなしを私もいつかお返しできるよう、自分の出来ることを見つけ努力していきたいと思います。

今回の経験を活かし、これからの国際交流にも積極的に向き合っていければと思います。ありがとうございました。

私は、今まで海外に行ったことがなかったのですが、ホームステイや海外に行くことには前から興味があったので、行けることになったのを知ったときには、楽しみやワクワクという気持ちはもちろんありましたが、緊張や心配、不安という気持ちもたくさんありました。ですが、実際行ってみると、現地の方々はとても優しく親切な人達ばかりで、ホストファミリーと一緒に行動した人と過ごしていく内に緊張も解けて、コミュニケーションをとれるようになりました。その中で、私は現地の方々が行っていることが分からないことが多かったので、自分でもとても驚きました。



私は、様々な場所に見学に行くにつれて、日本と海外の違いが多く見られました。例えば、スーパーマーケットでは、商品がへこんでいたり、すでに使われていたり、開けてあったりする物がいくつかあり、日本との違いに驚きました。ですが、品揃えは日本に比べてとても多く、こんなものもあるのかと思うようなものもたくさんありました。

学校での活動も違いがありました。中学校では、障がいがある子達にもしっかりと対応をして、その子達が生活しやすいように照明などにも気を遣い、勉強だけでなく、生活に不便がないように洗濯機なども置いていたので、すごいなと思いました。

大学では、実際にものを使用して学べたり、大きなモニターを使い、実際に物事を行なっているかのように学べる場所など、その仕事に就いたときにしっかりと働けるような取り組みをしていてとても驚きました。



ここには書ききれないぐらいのたくさんの驚きや、貴重な経験、体験が出来てとても楽しかったです。これからも、この経験を忘れずに英語をたくさん勉強して、またアメリカに行きたいです。

今回の訪問でたくさん色々なことを学びました。

1日目に驚いたのはお昼ご飯の量です。日本とは違い、飲み物も日本でいう一番大きいサイズがアメリカだと普通サイズだったことに驚きました。なので、中々減らずすぐにお腹いっぱいになってしまいました。



1日目と2日目は時差ぼけやパサデナに慣れなかったというのもあったと思います。一番慣れ始めたのが最終日頃です。わたしは行ってとても楽しかったです。アメリカンジョークやアメリカの文化をたくさん知れていい思い出ができたと思います。

特に印象に残ったのは NASA の宇宙ステーションで、とてもいい経験ができたと思います。今までの宇宙飛行士の歴史などを改めて知られてとても興味深かったです。普段は見れない宇宙飛行士の人たちがトレーニングしているところなども見られて、いろいろな道具を使っていることやトレーニング方法も様々なことがあることです。

アメリカの大学や中学校にも行きました。日本とは違い学校の中が広く考えられると感じました。部活の部屋も各部屋があり大きくて羨ましく思いました。



最後のさよならパーティではみんな一人一人大切な時間を過ごせました。一瞬だったように時間が過ぎていってあっという間だったなと飛行機の中で考えていました。

わたしは、また行きたいと思いました。めったにない機会でもメンバーも教員の方も支えてくれたおかげだと改めて実感しました。パサデナの人たちも優しく接してくれてとてもありがたかったです。来年も行けたら行きたいです

これまで市民親善訪問団の一員としては既に何度も訪れているパサデナに、今回初めて青少年訪問団の随員（通訳兼）として参加した。私が初めてパサデナを訪れた1998年当時に会員だったメンバーの多くが天に召され、ほぼ全てのメンバーが入れ替わっているにも関わらず両市民の友好の絆が変わらず継承されていることに深い感銘を受けた。この友好関係を存続させていくためにも、現地の実情を報告し今後への展望と課題について記したい。

～パサデナ姉妹都市協会について～

現在、活動にアクティブに参加しているメンバーは15名程で、新規会員の獲得に苦戦しているとのことだった。市役所と一体となって運営されている秦野パサデナ友好協会との大きな違いは、独立した民間の組織であるという点だ。姉妹都市交流を専門に担当する市の職員はおらず、市役所が所有するバスでの送迎などのサポートはあるものの、基本的に会員の資金により組織運営が行われている。コロナ禍で疎遠になった会員もあり、メンバーの高齢化が進む中、世代交代に伴い難しい舵取りが求められている実情が伺えた。

～青少年訪問団の目的・役割・開催時期について～

公募によって選ばれた青少年メンバーは、秦野を代表する親善大使とも言える。現地では簡単な自己紹介をする機会があったものの、より積極的な交流や秦野市を紹介する機会があっても良かったのではないかと感じた。そのためにも、より明確な目的意識を持って参加してもらうことで、帰国後の姉妹都市交流イベントへの積極的な参加協力に繋げていきたい。併せて、友好協会会員の任務として青少年の現地での交流のサポートやコミュニケーション促進のヘルプなど、より明確な役割を担っても良いのではないかと感じた。開催時期について、英語圏では一般的に1月6日頃まではクリスマス休暇で旅行などに出掛けていることが多く、受け入れ側にとってはホストファミリーの確保が難しく、互いに訪問の時期としては9月～10月頃が最適なのではないかとの意見があった。

～現地での通訳について～

以前、市民親善訪問団に公式通訳として同行した際には、パサデナ側にも通訳者が常に同行しており、基本的に秦野側のスピーチなどをメインに逐次通訳を務めた（公式通訳として参加費の負担はなし）。しかし、今回は NASA への訪問を除き現地での通訳がおらず、結果的に市役所表敬訪問を含むパサデナ側のイベントほぼ全ての通訳を担うこととなった。今後このような事態を避けるべく、双方の通訳業務や分担については事前に確認をする必要があると感じた。

今回、最初から最後まで献身的に訪問団に付き添ってくれたキャロルさんになぜそこまで親切にしてくれるのかを尋ねたところ、秦野を訪問した際に受けた「おもてなし」への感謝と恩返しとの返答が返ってきた。この国境を越えたおもてなしの交流も今年で60周年を迎える。次の世代にこの素晴らしい交流の輪を引き継いでいくためにも引き続き尽力していきたい。



今回の姉妹都市パサデナの訪問に際して、日程や訪問内容を綿密にご準備して下さったこと、沢山の方々が盛大に歓迎して下さったことに感謝の気持ちで一杯です。また、今回の研修を通して、秦野市とパサデナ市の繋がりを感じ、幼いころから見ていたパサデナ通りのストリートサインが私にとって特別なものとなり嬉しく思います。

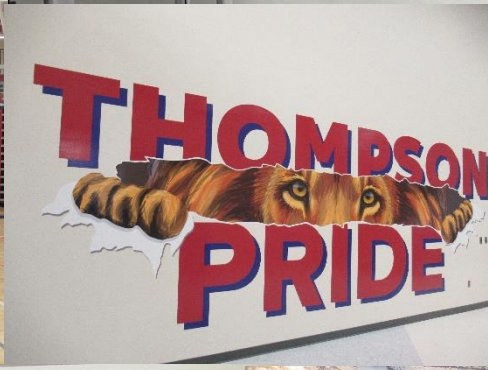


私にとってアメリカはまだ訪れたことのない国の一つでした。初めてのアメリカ、何もかもが大きくて先進的で、ホストファミリーのリック・マリア夫妻に笑われてしまうほど見たもの一つひとつに対して「Wow!」の嵐だったことを覚えています。ホームステイでは、ホストファミリー夫妻が温かく迎えてくださり、私たちが過ごしやすいように気遣って下さいました。リックが朝ごはんに作って下さったふわふわのスクランブルエッグ、マリアお手製のパプリカのキッシュ、4日目のディナーと一緒に食べたザ・アメリカンなハンバーガーなど、忘れられない味となりました。

また、夫妻の娘さんが小学校教諭ということもあり、ホームステイ1日目に頂いたギフトは学校現場で役立つものばかりで、おもてなしに感激しました。頂いたものを早速勤務している学校の教室に飾りホストファミリーのことやパサデナのことを思い出しながら授業をしています。様々な経験を思い出しながら帰国後を過ごしていますが、何度も思い出してしまうのは、みんなで夜集ったときに大津団長先導の下、「上を向いて歩こう」を大合唱した夜のこと。「スキヤキ」ソングとして有名なこの歌は、言葉が通じない私たちを繋いだ架け橋となりました。音楽は国境を超える、まさにその言葉を肌で感じた瞬間でした。



この研修は私にとってとても良い経験になりました。教育関係の仕組みの違い、異文化交流の楽しさと難しさ、人との出会い。ただの旅行では得られないこの6日間の経験をこれからの教員生活の糧として大切にしていきたいと思います。



令和5（2023）年度
パサデナ市派遣事業
青少年訪問団・教職員海外派遣研修訪問団
訪問の記録

編集・発行 秦野パサデナ友好協会事務局(秦野市文化振興課内)